

研究・調査報告書

報告書番号	担当
343	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Effect of ADH1B genotype on alcohol consumption in young Israeli Jews. 若年層のイスラエル系ユダヤ人で、ADH1B の遺伝子型が飲酒に及ぼす影響	
執筆者	
Spivak B, Frisch A, Maman Z, Aharonovich E, Alderson D, Carr LG, Weizman A, Hasin D.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2007 Aug;31(8):1297-301.	
キーワード	
ユダヤ人、アルコール脱水素酵素 1 B(ADH1B)、保護作用、アルコール依存症、環境的な影響	
要 旨	
<p>背景：</p> <p>ユダヤ人では、アルコール依存症の危険性に影響を及ぼすアルコール脱水素酵素 1 B(ADH1B)が保護的なアリルを持つ割合が多い。環境的な影響に反映され、若いイスラエル系ユダヤ人ではアルコールの消費量が増えている。ADH1B の遺伝形質と飲酒量との関係がイスラエル人の高齢層と若年層で異なるかを検証した。</p> <p>方法：</p> <p>イスラエル社会に住んでいる 22～65 歳の住民が 1 機会に飲んだ最大飲酒量等を聞くインタビューに参加した。ADH1B の遺伝形質をその内 68 人で調べ、保護作用(-)群 (ADH1B*1/1) と保護作用(+)群 (ADH1B*1/2 か ADH1B*2/2) とに分けた。最大飲酒量を従属変数として用い、ポアソン回帰分析を用い、年齢と遺伝形式との交互作用を検定した。</p> <p>結果：</p> <p>ポアソン回帰分析を用い、最大飲酒量を結果として用いると、ADH1B 遺伝形質は年齢との交互作用が有意であった。(P 値=0.01) 33 歳以上の参加者では、最大飲酒量は少なく、ADH1B 遺伝形質とは関連していなかった。33 歳未満で、ADH1B*1/2 か ADH1B*2/2 であった参加者では、最大飲酒量はやはり少なかった(平均 2.6drink)。しかし ADH1B*1/1 であった者では最大飲酒量は概して多かった(平均 6.2drink)。</p> <p>結論：</p> <p>イスラエル人の若年成人で、遺伝子による保護作用(-)群では、生涯における最大飲酒量が、安全でなく危険を伴う閾値を超えていた。若年イスラエル人の飲酒量増大をもたらす環境面の影響は、特に飲酒に対する防御作用を持たず、人数も多い ADH1B 遺伝形質をもつ人に影響を与えるであろう。</p>	